

第2回定例岡山県教育委員会議事録

- 1 日 時 平成31年4月19日(金)
開会13時30分 閉会14時25分
- 2 場 所 教育委員室
- 3 出席者 教育長 鍵本 芳明
委員(教育長職務代理者) 田野 美佐
委員 梶谷 俊介
委員 上地 玲子

教育次長 村木 智幸
教育次長 高見 英樹
教育政策課 課長 中本 正行
副課長 細川 誠
総括主幹 間野 良一
高校教育課 課長 藤岡 隆幸
義務教育課 課長 川上 慎治
- 4 傍聴の状況 1名
- 5 報告事項
(1) 平成30年度文部科学省「英語教育実施状況調査」の結果について
(2) 平成31年度全国及び岡山県学力・学習状況調査の実施について

6 議事の概要

開会

非公開案件の採決

(教育長)

本日の議題の審議に入る前に、議題の公開の可否について決定したい。

委員から、議題を非公開とする発議はないか。

(委員全員)

(特になし)

(教育長)

特にないようなので、直ちに審議に入る。

報告事項(1)平成30年度文部科学省「英語教育実施状況調査」の結果について

・高校教育課長・義務教育課長から資料により一括説明

(委員)

英語担当教員の英語力が向上していることは良いことだが、中学校の英検3級以上相当と思われる生徒の割合が下がっていることは残念である。その要因はどう考えているのか。

(義務教育課長)

2点要因があると考えている。1点目は、英検3級相当と測れる試験の受験率が上昇していないことである。今後は、英検やGTEC等の受験率を上げる努力を行ってまいりたい。2点目は、「英検3級以上相当と思われる生徒」の測り方についてだが、基準がまちまちになっているため、その割合が年度によってばらついていることである。1点目と同様になるが、生徒の英語力をきちんと測るためにも、外部試験受験の取組を進めてまいりたい。その取組により教員の授業改善にも繋がると考えている。

(委員)

外部試験の受検料はどの程度なのか。

(義務教育課長)

平成30年度では、英検3級は3,500～4,000円程度、GTECは5,000円程度である。

(委員)

義務教育において、受検料が必要となる外部試験を導入するのが良いのか。学力調査も県独自に行っていることを考えると県教育委員会として外部試験に見合う内容の試験を作成し生徒の英語力を把握するという考え方もあるのではないか。外部試験でなくては英語力を測ることができないものなのか。

(義務教育課長)

受検料負担については、モデル事業として外部試験の支援を行っており、平成31年度においては18市町村・22校を対象としている。各市町村教育委員会においても年々支援の機運が高まっており、既に9市町においては、全額・半額補助等の違いはあるが、行政の支援が進んでいる状況である。

英語力の測り方については、外部試験を受けていない生徒でも、教員の判断で「英検3級以上相当と思われる」としているところではあるが、その判断にばらつきがあり、正確な英語力の把握が難しい。外部試験でないと英語力を測ることができないというわけではないが、利用することで、正確な英語力の把握及び教員の授業改善につながると考えている。

(教育次長)

聞く・話す・読む・書くの4技能を学ぶ上で、教員の判断だけではなく、客観的な評価によって現在の英語力を測ることも必要であり、その結果を次の指導に活かしていくことが大切だと考えている。

(委員)

外部の評価も必要だと思うが、生徒の評価体系を外部機関に全て任せてしまってよいのか。県教委としても、社会に必要な英語力とは何かを議論しながら、評価体系を持つことが必要ではないのか。

(教育長)

通常の授業の中で4技能を身につけるため、身についたかどうかの判断も授業の中でしなくてはならない。その基準は学校が持つべきであり、学校によって異なることは適当でないし、現在の基準が曖昧である場合は、揃えていかなければならない。

また、外部試験を受けることのメリットもある。Speakingについては、生徒も経験が少なく、教員にとっても生徒が受験する姿を見て、自身の授業に活かすことができる。この両方の面から考えていかなければならない。

(委員)

9市町では、支援が行われているとのことだが、多くの学校では、受験する・しないは生徒任せになっていると思う。英検等を受ける目的や意味をしっかりと生徒に伝えられていない学校もあるのではないのか。

(義務教育課長)

市町村教育委員会を通じて目的等を伝えてまいりたい。

(委員)

高校生の留学や姉妹校交流など海外の高校生との交流を促進するとあるが、具体的にはどのように促進を図るのか。

(高校教育課長)

現在16校が海外の学校と姉妹校提携を締結しており、お互いに修学旅行や長期・短期留学の受け入れを行い交流している。また、まだ十分ではないが、インターネット上での交流の場を設けて、生徒の意欲向上を図ってまいりたい。

(委員)

高校生の留学についてだが、希望する生徒は、家庭の経済状況に関わらず行くことできるのか。推進するのであれば、家庭の状況に関わらず意欲ある生徒が留学できる仕組みが必要だと思う。

(高校教育課長)

県として留学経費の支援は行っているが一部であるため、留学する生徒の家庭には一定の経済的負担が生じてしまう。

(教育長)

高い目的意識・意欲がある生徒については、国の奨学金制度等を活用することで

負担を軽減することができる。留学を希望する生徒へ高校生留学フェア等を通じて、奨学金等の情報発信を行ってまいりたい。

(委員全員)

了 承

報告事項(2)平成31年度全国及び岡山県学力・学習状況調査の実施について

・義務教育課長から資料により一括説明

(委員)

中学校の英語実施に伴ってトラブル等は発生しなかったか。

(義務教育課長)

我々も心配していたが、トラブルの報告は入っていない。

(委員全員)

了 承

閉会